

無音でスーイスイ

セグウェイに乗ってみた



園内をセグウェイで走る参加者たち。快適だが、普段使わない筋肉に負担をかけるためか、後日筋肉痛になる人もいるという＝4月30日、滑川町の武蔵丘陵森林公園

未来の乗り物 新緑をゆく

昔のSFには未来の道具として宙を浮いて走る乗り物がよく登場した。そんな夢は電動立ち乗り二輪車「セグウェイ」として実現。公道はまた走れないが、滑川町の国営武蔵丘陵森林公園で4月から園内

をセグウェイで回る自然体験ツアーが始まっている。好奇心に駆り立てられ、この未来の乗り物を試してみた。

(高橋信彦)

滑川 武蔵丘陵森林公園で自然体験ツアー

つま先にそつと力を入れると前に進み始める。緩めると止まる。かかとに重心を移し過ぎると後ずさりするが、倒れることはない。アクセルもブレーキもない。本当に不思議な感じだ。

セグウェイは9年前に米国で発表された電動二輪車。当



ツアーではガイドが木や花、動物などについて丁寧に説明してくれる。歩いて見るには広すぎる園内なのでセグウェイで回るのは快適だ。

初は「世界を変えるマシン」として話題になったが、道路交路上、公道を走ることができないため、普及は難しい現状となっている。

しかし、馬との触れ合い活動を全国で行っているNPO法人「インフォメーションセンター」が注目。昨年、森林公園内をセグウェイで回る自然体験ツアーを試し、先月から通年開催を始めた。

ツアーは乗車講習から始まる。重心移動に慣れると、セグウェイの小回りの良さに驚かされる。左右に方向転換する時、二つのタイヤはそれぞれ反対に回転し、前後に進まずに車体の向きが変えられない。車やバイクではできない技だ。

「楽しくて楽。年寄りのにも

できるしね」。一緒に参加したさいたま市北区の野田進さん(70)は昨春秋に初めて乗り、面白さが忘れられなくて今回は夫婦で申し込んだ。最初はおっかなびっくりだった妻の美智子さん(68)も慣れるのに時間はかからなかった。

30分の講習を終えて、園内約9キロの散策に出発。起伏のある自然の中をスイスイと走る。駆動音がほとんどないの、鳥のさえずりがはつきり聞こえる。

「セグウェイに乗ると、思わずニコッとしてしまう」「セグウェイ・スマイル」というのがあります」とガイドの神名(しんめい)清文さん。確かに乗る楽しさ・心地よさに、顔が自然にほころんでいた。

走っていると、道行く人が皆こちらを見る。「あれは何?」「面白そう」。ものすごい注目の的。「ど」で乗れるの」「乗るの難しい?」と声を掛けられ、見知らぬ人たちと自然と会話が生まれる。「普段は擦れ違ってもあいさつもしないのに、セグウェイに乗ると会話が生まれるんですよ」と神名さんは言う。なるほど。セグウェイ・スマイルは、乗る楽しさだけでなく、人と触れ合う楽しさにも由来するのかもしれない。2時間のツアーはあっという間で、終わってしまったのが惜しかった。

料金は安くはないが、スキューバ・ダイビングを体験すると思えば、高いとも言えない。実際、インフォメーション・センターは今後、ダイビングのよつに3回乗って技術やマナーを習得した人向けに1日貸し出すコースを設けるという。

「セグウェイはコミュニケーションが取りやすく、馬と同様に自然と人、人と人をつなぐ懸け橋になる」と神名さん。そつたな、仕事を忘れ、弁当を持ってゆつくりと回れば最高だろうなと思った。

セグウェイ自然体験ツアーは月、火曜を除く午前と午後の2回。18歳以上対象で体験料8千円(公園入園料400円別途)要予約。5日までは公園南口ゲート前広場で約15分の試乗体験が行われている(当日受け付け、体験料500円)。

問い合わせはNPO法人インフォメーションセンター(平日0800・33881・1361)へ。